

「大川の駅」ニュース

令和6年9月27日発行

地盤対策工事実施中！



地盤対策工事（プラスチックボードドレーン打設準備工）の様子（令和6年8月21日撮影）

「大川の駅」は2期事業に分けて整備



1期事業

道の駅・川の駅

主に「賑わい」を創出する拠点
地域の食を活用したグルメや優れた景観を楽しむことができ、外からもたくさんの方が集まり、笑顔あふれ、賑わう場とします。

2期事業

広域的地域振興拠点施設
(※道の駅敷地内約1,600㎡)

主に「稼ぐ力」を強化する拠点
基幹産業のプロモーションのほか、事業者間のマッチング、人材育成、最先端技術の活用、新たな産業の育成などを通し産業競争力の強化を図ります。

相乗効果

民間事業誘致



【発行者】大川市役所 大川の駅整備振興課 振興係
☎ 0944-85-7069 メール：okwekishinko_k@city.okawa.lg.jp
詳細はこちら（市HP「大川の駅」特設ページ）



大川リビルディング事業 ～「賑わい」と「稼ぐ力」の創出～

「大川リビルディング事業」とは？

デジタル化・国際化などの社会変化に対応するため、産業・観光・まちづくり・文化など各分野の事業内容や推進組織のあり方を、時代に適した形に再構築（リビルド）することに取り組んでいます。人口減少社会においてもしなやかに成長するまちづくりを目指す地方創生事業です。また、令和10年春に開業する「大川の駅」を集客拠点として、そこに生み出される「賑わい」と「稼ぐ力」を市全体に波及させ、経済効果を高めることも目的にしています。

詳しくは市HPに掲載。今後の取組状況などについてはそちらでお知らせします。

リビルディング事業 3つの理念

①新たなマーケットへの船出

インターネット市場と海外市場は、今後も更に大きく成長していくことが予想されます。

時代にあわせて、新たな市場に挑戦する事業者を支援します。

②価値の再発見と発信

市民にとって当たり前のもので、市外の人にとってはそうでないものがあります。そのような価値ある原石を再発見し、必要に応じて磨き上げ、発信していきます。

③持続性と迅速性を持つ組織の構築

持続性を担保する収益力と迅速な意思決定力を持つ、産業・観光振興を中心的に担う組織を構築していきます。

求められる対応

○デジタル社会への対応

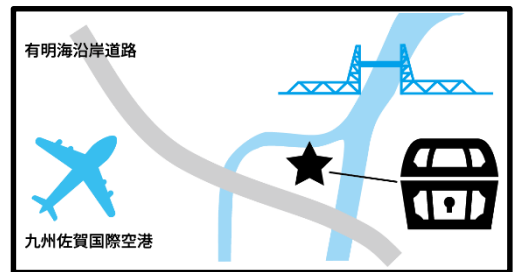
インターネット市場が急拡大。情報発信もSNSが主流に。

○国際社会への対応

国境を越えた観光や商取引が身近な存在に。

○人口減少社会への対応

人口減少下でも、まちが賑わい、企業誘致やふるさと納税も含め地域経済の成長が重要。



「大川の駅」という宝箱に、どのような宝物を詰めていくのかということも目的のひとつです。

リビルディング事業 4つのテーマ

重点施策A

小保・榎津藩境のまちなみの観光まちづくりとインバウンド誘客

県指定文化財の旧緒方家住宅の保存整備を核として、まちなみの価値の継承とともに、国内外からの誘客に向けた環境整備に取り組みます。

重点施策C

リバーサイド観光の活性化

私たちが当たり前のものとして捉えている筑後川の素晴らしい観光資源の魅力を再発見・再構築し、「大川の駅」と観光誘客において相乗効果を発揮できるよう、有識者委員からアイデアを募りながら、具体的な実施内容を協議していきます。

重点施策B

食に関する商品・メニュー開発

ブランド強化や生産者の所得向上のため、6次産品（農水産物を使った加工品）の開発を行います。「大川の駅」事業や若手生産者等と連携し、さらに「道の駅川場田園プラザ（旅行情報誌『じゃらん』の「全国道の駅グランプリ」で2年連続グランプリを獲得）」が創業したコンサルティング会社から支援を受け、3か年計画で取り組みます。

重点施策D

市場開拓

ネット市場をはじめ、商業施設向けのコントラクト家具やリノベーション市場、経済成長を続けるアジア各国など、新たな市場の開拓に取り組んでいきます。